

# まほるば



## 弘前病院の理念

生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います

第62号

2006年8月発行

### 『ご意見箱』を増設

当院への苦情や要望、意見等については、外来受付に設置していた中央管理の「ご意見箱」(1個)と、病棟や機能訓練棟で独自に設置・管理していた「ご意見箱」により対応しておりました。

しかしながら、病棟内に設置されている投書し難いとの意見が多数寄せられたことから、8月1日(火)からは、外来や各階のエレベータ付近、母子医療センター内、南病棟前廊下に中央管理の「ご意見箱」(6

個)を設置し、患者様やご家族等の方から当院に対する意見等をお伺いし、それを業務に積極的に反映させることにしています。



管理課長 齋藤 侯智

### 高校生一日看護体験を通して



7月26日(水)、毎年恒例の「高校生一日看護体験」を今年も行いました。

参加した高校生は21名で、午前中は、院長の挨拶や看護部長の講義、当院附属看護学校教育主事の講義が行われ、その後、人形を使った心臓マッサージや筋肉注射、採血、ベビーの沐浴などを看護学校で体験していただきました。午後は、各病棟で実際に看護を体験する時間を設けました。西3病棟には人工呼吸器を装着した患者様が多く、心電図モニターや様々な機械の音が常に鳴っています。そのため高校生たちが不安に思わないか、患者様に近付けないのではないかと心配しましたが、患者様

に元気な声で挨拶し、体験する前にも声をかけてお話ししていました。

私は、今回初めて担当になって、体験させていただく患者様への協力依頼など事前準備を行って当日に臨みましたが、高校生たちから「患者様にありがとうと言ってもらえてうれしかった。」という言葉聞いて、もっと体験させてあげたかったと思いました。高校生の一日看護体験は、私にとっても貴重な体験になりました。

今後は、当院で看護体験を希望する高校生には、より充実した一日が過ごせるようにしたいと思います。

西3病棟 副看護師長 石井 智子



### 津軽の夏を彩る光の扇 — 弘前ねぶたまつり —



8月1日(火)~7日(月)、初日こそ一時雨が降りましたが、弘前ねぶたまつり開催期間中は晴天続きでした。

今年は、弘前市、旧岩木町、旧相馬村が合併したことから、参加団体は70を超え、3日(土手町コース)と5日(駅前コース)は、運行台数の多さに開始時間が30分早められ、出陣を待つねぶたの列は圧巻でした。

勇壮な鏡絵と優美な見送り絵が美しい大型の扇ねぶたを始め、アイデアを凝らした人形型の組みねぶたや燈籠など見所はたっぷりです。体の芯に響く太鼓の音、囃子の笛の音色、「ヤーヤ ドー」の力強いかけ声、耳に心に残ります。

今年は、通常のねぶた審査に加え、「ならねぶたコンテスト」が行われました。これは、7月29日から10月22日まで

弘前市吉野町で開催される弘前出身の現代美術作家「奈良美智」の展覧会「A to Z」に連動し、奈良作品をモチーフとして作成された燈籠など、奈良美智本人が審査・表彰するものです。様々な「ならねぶた」も見物客を楽しませてくれました。

ねぶた見物を堪能したら、今度はぜひ参加して下さい。自由参加が可能な団体もありますので、お子さんのいる方には特にお勧めします。さあ、一緒に「ヤーヤ ドー」!

庶務係 工藤 真淑



## 【市民講座】“成人喘息診療の実際”

喘息の病態は、気道の慢性炎症です。なかなか完治しない病気ですが、適切な治療によりコントロールができるようになってきました。治療の基本は、発作の予防です。発作が起ってから病院に行くのではなく、発作を起こさないように普段から治療することが大切です。

発作を予防する中心的な薬は、吸入ステロイド薬です。一般的にステロイド薬は、副作用の強い薬の一つと考えられています。しかし、喘息治療で使用する吸入のステロイド薬は、通常量ではほとんど副作用がありません。吸入を開始してから4週間程で喘息症状は劇的に消失します。ただここで調子が良くなったからと治療を中止したり、薬を減らしたりする患者様がいますが、これは好ましいことではあ

りません。喘息は、慢性疾患です。吸入ステロイド薬は、継続して使用することが必要です。

発作の時は、発作止めの吸入薬が有効ですが、過剰な使用は危険です。わが国では、毎年約3,000人が喘息で死亡しています。発作止めの吸入薬の使いすぎは、喘息を重症化させ喘息死の危険性が高まります。使用の目安は、1回2吸入で1日3～4回までです。それでも発作が治まらない時は、直ぐに受診することが大切です。

呼吸器科医長 山本 勝丸



## 平成19年度看護職員採用説明会を開催



7月8日(土)、当院附属看護学校体育館において、北海道東北ブロック事務所主催による来年度の看護職員採用に向けた「看護職員採用説明会」が開催されました。

北海道東北ブロックの国立病院機構13病院と、関東信越ブロックの国立病院機構8病院の計21病院が参加され、集まった看護学生に、それぞれの病院の特色や魅力などをPRしました。

### ★【当院のPR】

教育研修では、プリセプター制度を導入しており、また新規採用者研修(段階によりⅠ・Ⅱ・Ⅲ)により、現場で直ぐに生かせる技術・救急看護が学べます。

試験の願書受付は8月31日(木)まで、試験は9月9日(土)です。

ご応募お待ちしております。



職員班長 漆原 正芳

## 医師対象治験研修会の開催

当院の全診療科において治験を受ける体制を構築するため、全国の国立病院機構に先駆けて、機構本部主催の「医師対象治験研修会」が7月28日(金)に当院の地域医療研修センターで開催されました。

機構本部治験推進室の坂本照美治験専門職より「治験責任医師・分担医師について」、水野宏一治験専門職より「治験の概要」についての講義があり、その後、当院の治験コーディネーター(CRC)2名(薬剤科/吉田、受託研究管理室/齋藤)より当院でのCRCとしての役割や業務内容について説明しました。そして最後に、治験経験が豊富で、現在も治験責任医師として治験を行っている柿崎整形外科部長より「治験実務経験談」と題して、ユーモアたっぷりの講義がありました。

今回の研修会は、約3時間にわたる研修でしたが、国立病院機構青森病院から7名の参加があり、当院

のcomedicalを含めて38名が参加され、有意義な研修となりました。

当院では、今後は政策医療分野の特性を生かし、成育医療関連領域や抗悪性腫瘍剤の治験等にも積極的に関与し、将来的には治験分野において津軽地域又は東北の中核を担う施設になることを目指しています。

昨年度からCRCが2名配置され、治験サポート体制も十分整っていますので、各診療科の先生方を始め院内全職員の治験への理解と推進のご協力をお願いします。

治験主任 吉田 和美



# 外来診療一覽

## ◆外来医師診療一覽表 (2006年8月1日現在)

診療科		月	火	水	木	金
内科		人見博康	小沢一浩	人見博康	小沢一浩	小沢一浩
呼吸器科		山本勝丸	中川英之	中川英之	山本勝丸	中川英之
消化器科		佐藤年信 吉谷元	佐藤年信 中畑元	佐藤年信 吉谷元	中畑元 (吉谷元)	佐藤年信 中畑元
小児科		杉本和彦 佐藤啓	野村由美子 遠藤泰史	杉本和彦 佐藤啓	遠藤泰史 野村由美子	杉本和彦 野村由美子
外科		山中祐治 坂本義之	高橋克郎 三上勝也	横山昌樹 山中祐治	横山昌樹 高橋克郎	三上勝也 坂本義之
整形外科	午前	柿崎寛 佐々木資成 近江洋嗣	柿崎寛 菅原卓	佐々木資成 田中大	佐々木資成 大鹿周佐	柿崎寛 田中大
	午後	/	/	/	/	柿崎寛
脳神経外科		/	/	木村正英	/	/
皮膚科	午前	鳴海博美 大嶋英恵	鳴海博美 大嶋英恵	鳴海博美	鳴海博美 大嶋英恵	大嶋英恵 鳴海博美
	午後	/	●手術	鳴海博美	●手術	大嶋英恵
泌尿器科		橋本安弘	橋本安弘	橋本安弘	橋本安弘	橋本安弘
産婦人科		真鍋麻美 工藤香里	佐藤春夫 工藤香里	真鍋麻美 工藤香里	●妊婦健診	佐藤春夫 真鍋麻美
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
耳鼻咽喉科		黒田令子 阿部尙央	黒田令子 阿部尙央	●手術	黒田令子 阿部尙央	黒田令子 阿部尙央
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
	治療	/	阿部由直 (午後)	/	/	/
麻酔科		●手術	工藤明	●手術	工藤明	●手術

※学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

## 永年勤続職員表彰伝達式



7月24日(月)、国立病院機構理事長より表彰されることになった永年勤続職員の方々に対する「表彰伝達式」が当院大会議

室において行われました。

当日は、厳かな雰囲気の中、受章された職員は、院長より賞状と副賞が授与されました。

その後院長が、「長きにわたり、多くの方々を励まし、生きる勇気を与えてくれたことに感謝します。後に続く者の良き目標者として医療に従事されるようお願いします。」と祝辞を述べ、受章者を代表して高橋臨床検査技師長より謝辞が述べられ、伝達式は終了しました。

受章者は、次のとおりです。

### ★【30年以上勤続】(2名)

臨床検査技師長	高橋俊英
看護師長	福士英子

### ★【20年以上勤続】(6名)

生理学主任	外崎和代
副看護師長	船木久美
看護師	奈良岡貴代子
看護師	佐藤英子
看護師	小田桐恵
庶務係	工藤真淑

職員班長 漆原 正芳

## 【職場紹介】 外 来

当院の外来は、16の診療科からなっています。

その他、特殊外来として「更年期外来」・「不妊外来」、専門外来として「リウマチ」・「膝」・「補聴器」・「ストーマ」・「小児慢性外来（アレルギー、内分泌）」・「発達外来」があり、医療一般や治療方針などについての疑問や不安を持つ方が相談する「セカンドオピニオン」、女性特有の症状などを総合的に診察する「女性専用外来」などがあります。

スタッフは、看護師長2名、副看護師長1名、常勤看護師7名、パート看護師24名、救急輪番看護師5名の総勢39名です。

当院の看護部の理念に基づいて、患者様への気遣いと配慮を行い、安心と満足していただける確かな看護を目指して、日々外来看護に当たっています。



社会的には「外来は病院の顔である。」と言われていしますので、毎日笑顔を絶やさずに、やさしく思いやりのある、そして患者様中心の看護を常に心がけて、外来スタッフ一同頑張っています。

副看護師長 工藤 洋子

## 【ふるさと紹介】 宮城県大崎市岩出山

私は仙台に家を構えていますが、宮城県の岩出山（大崎市岩出山）に18歳まで住んでいましたので、岩出山を紹介します。

岩出山で有名な場所と言えば、国指定史跡名勝の有備館です。有備館は、寛文3年（1663年）、岩出山二代領主伊達宗敏の時、二の丸が火災で焼失した際に仮居館として建てられたものです。その後元禄5年（1692年）、三代領主敏親は、この建物を学問所とし、現在の地に移転して「有備館」と名を改めました。寄せ棟茅葺き書院造りの簡素な建物は、江戸時代の学問所の姿を今に伝える文化財です。庭園は、四代領主村泰により正徳5年（1715年）、仙台藩石州流茶道三代清水道竿によって作庭されました。伊達政宗が居城した岩出山城本丸跡の断崖を借景として池中に島を配した回遊式泉庭園です。全部を見ても所要時間は20～30分位です。

毎年9月に行われる「政宗公まつり」は、仙台青葉城跡に鎮座していた「政宗平和像」が、昭和39年に政宗公ゆかりの地(\*)である岩出山に移された時を契機に始められたおまつりです。

岩出山は小さな田舎町ですが、鳴子温泉、鬼首温泉、中山平温泉への通り道です。温泉の帰りに時間があったら寄ってみて下さい。



最後に、名物にうまいものなしと言われていいますが、おおくぼのかりんとうを始め、納豆、凍み豆腐、酒まんじゅう、水まんじゅう、饅頭麩、しそ巻き、森泉（お酒）などは美味しく、竹細工も有名で宮城県の伝統工芸品に指定されています。

(\*) 伊達正宗は、天正19年（1591年）9月、生誕の地米沢を離れ、秀吉の命により予め徳川家康が修復していた岩手沢に入府して地名を「岩出山」と改め、慶長8年（1603年）8月、仙台城に入城するまでの12年間、この岩出山城を拠点にしていました。

副薬剤科長 諏江 祥子

## 【今月の川柳】

※ 掲載した作品は、広報誌編集委員会で選出したものです。

初外出 おもわずまぶしく 空みあげ  
病衣から 私服に着がえて 初外出  
せっかくの 外出日なのに 雨が降り